Joker 2号 大内雅博の

当たらずといえども遠からず

連載

正会員　編集委員　大内雅博 OUCHI Masahiro（高知工科大学助教授）

世界平均と比較すると、今年あたりにセメント消費量を指標とした建設投資で「普通の国」になってしまったと思われるわが国とはいえ、世界中にはいろいろな国がある。全世界の国々の平均と比較することだけに意味があるわけではないだろう。

先回、建設投資はその国の経済発展により増加、そしてある時点から減少に転じるという傾向を読み取ることができた（第2回：2006年5月号）。建設投資はその国の経済発展の段階に密接に関連していることはわが国の経験に鑑みても明白であろう。

そこで今回は、わが国が属するグループ―先進諸国と比較してみることにする。ここでは「先進国」を、1980年代以前からのOECD加盟国のうち、2003年の一人当たりGDPが1万ドル以上の、イギリス(UK)、ドイツ(DE)、フランス(FR)、イタリア(IT)、オランダ(NL)、ベルギー(BE)、ルクセンブルク(LU)、フィンランド(FI)、スウェーデン(SE)、オーストリア(AT)、デンマーク(DK)、スペイン(ES)、ポルトガル(PT)、ギリシャ(GR)、アイルランド(IE)、日本(JP)、アメリカ合衆国(US)、カナダ(CA)、オーストラリア(AU)、ニュージーランド(NZ)、スイス(CH)、ノルウェー(NO)、アイスランド(IS)の23カ国とした。現在ではポーランドなど東欧諸国もOECDに加盟しているが、第二次世界大戦後からの先進国との比較で推移を論じるにはこの23カ国が適当だと思われるからである。

そこで、わが国の一人当たりセメント消費量とこれらの国々の平均との推移を示す（**図-1**）。わが国が先進諸国平均を抜いたのが1967年。私の生まれる前年というあたりに因縁を感じる。

さらにこれを日本／先進諸国平均の倍率の推移で見てみよう（**図-2**）。最盛期にはわが国が先進諸国平均の1.5倍に達していた。バブル崩壊後も倍率自体は下がらず、ようやく1997年から下がり始め、現在に至っている状況である。統計のある2003年で1.0倍をわずかに上回っている程度にまで下がっているので、2004年以降、わが国が先進諸国の平均を下回っているのは間違いなさそうである。

先進国のなかでも、わが国の建設投資が多かったのは間違い

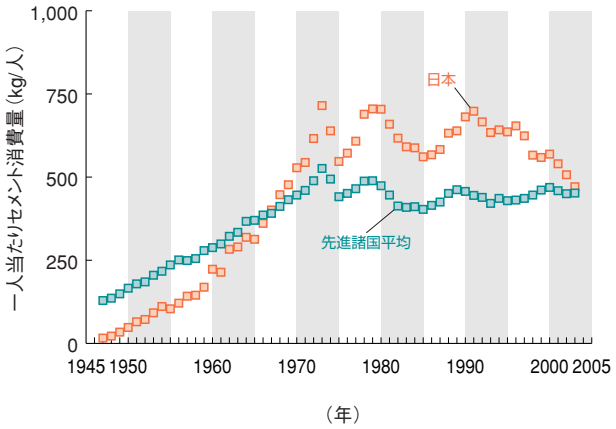

図-1　わが国と先進諸国平均の一人当たりセメント消費量の推移（1947～2003年）

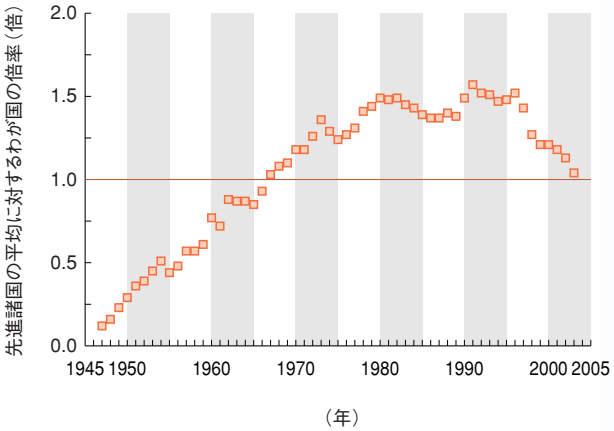

図-2　わが国の一人当たりセメント消費量の先進諸国平均に対する倍率の推移（1947～2003年）

第 11 回

日本の建設投資は多いのか？

― 先進国との比較

ないが、近年は平均程度、そしてこれからは少ないほうとなるのであろうか。

さて、「先進国クラブ」のメンバーとはいえ、ここで登場する国々の一人当たり GDP は、最高のルクセンブルクで 5 万 9,000 ドル、最低はポルトガルの 1 万 4,000 ドルあまりと大きな差がある。平均は 2 万 8,000 ドルである。やはり各国の経済発展の段階が建設投資に及ぼす影響が気になるところである。先進国であるから、経済が発展するほど、すなわち GDP が大きくなるほどセメント消費はむしろ少なくなるのではないか（第 2 回：2006 年 5 月号の図-2 および図-4 を参照されたい）。そんな予想をして、2003 年の各国の一人当たり GDP とセメント消費量との関係をグラフにしてみた。しかし、結果は惨憺（さんたん）たるもので、あまり相関らしきものは見られなかった（図-3）。「先進国」という、一人当たり GDP を狭い幅で切り取ってセメント消費量との関係を求めても、大まかな傾向すら出てこないわけである。

要するに、国ごとに見ればセメント消費量なり建設投資は経済の発展段階に大きく影響されるが、各国の潜在的な建設投資は大きく異なっており、建設投資に関して国どうしの絶対値を比較しても何も出てこないのであろう。

そこで、やや悪あがき気味にもっともらしい図をつくってみた。各国の一人当たり GDP と、その GDP 100 ドル当たりのセメント消費量との関係、いわば「セメント原単位」との関係である（図-4）。結構きれいな関係で、経済が発展しても建設投資の比率が下がり続けているということはわかる。対数関数で回帰すると $R = 65\,\%$ であるからそこそこの相関関係にある。この回帰曲線の上にある国は、経済力に対してセメント消費量、ひいては建設投資が大きめ、下にあれば小さめといえそうである。

わが国は回帰曲線のほんの少しだけ上にある。ただし、この回帰曲線はポルトガル、スペイン、ギリシャの、まだまだこれからの経済成長が期待できそうな国々での旺盛な建設投資に引っ張られている。わが国は同程度のスウェーデンと比較すればかなり多い。経済が同程度の国と比較すれば、わが国の建設投資はまだまだ多いというべきか。

（資料提供：(株) セメント新聞社）

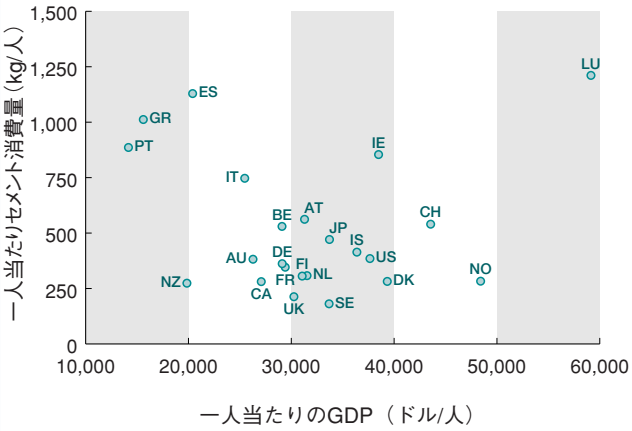

図-3　先進諸国一人当たり GDP とセメント消費量との関係
（2003 年）

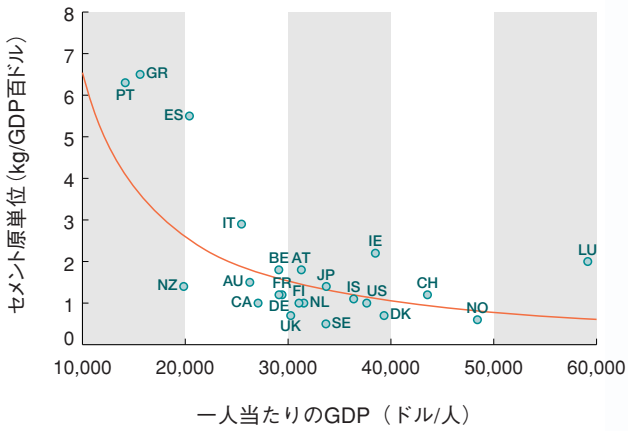

図-4　先進諸国一人当たり GDP とセメント原単位との関係
（2003 年）
回帰式：セメント原単位（kg/100 ドル）＝ 1,750,000 ×（一人当たり GDP（ドル/人））$^{-1.36}$

（キャラクター＆外枠デザイン：宇野洋志城）